

へアレンツキャンプの諸先生方

拝啓　心地よい秋風が吹き抜ける秋天の候、
へアレンツキャンプの皆様におかれましては ますます
ご活躍のことと存じます。

この度、14ヶ月間の支援を経て、無事に卒業することが出来ました。

娘が突然、「学校に行きたくない」と言い出しましたのは
6年生の5月でした。

特別な理由が無いわけでもなく、何か学校で嫌なことがあります
あったのかと聞いても 首を横に振って泣く娘を見て、
今日は一日休んでゆっくりさせよう、そう思いました。
ところが、次の日も次の日も「休みたい」と言い続け、
何もできないまま一週間が過ぎ、一ヶ月が過ぎ、
あっと言う間に季節は夏に入りました。

休んでいる間に担任の先生、保健室の先生、スクール
カウンセラーの方に相談したり、先生が自宅まで来てくれたり
したのですが、娘は元気なに「会いたくない」と言い続け、
親として何か出来るのか試行錯誤の毎日でした。

その頃は不登校にまつわる様々な本を読み漁っていました
のですが、不登校を容認する内容のもの、不登校を経験
したことのある大人になつた今は社会で成功している、という
内容のものがほとんどでした。

そんな時、水野先生の著書、「無理して学校へ行かなくて

いい、は本当か」に出会ったのです。

水野先生の本を夫婦で読み、私たちの子育てがいかに間違っているものであ、たかを思い知られされ、支援をお頼りすることにしてしまったのです。

初めは家庭教育支援コースで鈴木先生に担当していただき、一ヶ月後に復学支援コースに移ることになりました、渡先生に担当していただきました。

復学支援コースに移行してから、どのように子供にアプローチしていくのか説明を聞きながら、「家庭内を冷ます対応をとることで、娘は両親から見放されたこと自暴自棄にならないのだろうか、なによりもこのやり方で本当に娘には復学できるのだろうか、と幾ばくかの不安はありました。

率直に先生にそのことをお伝えすると「不安に思われる気持ちはよくわかります。でも、私たちを信じてついてきてください」と力強いお言葉をいただき、救われた気持ちになれたのを覚えています。

訪問カウンセラーとして初めて鈴木先生、石川先生に来ていただき、この日のこととは鮮明に記憶しています。これまで学校の先生が何度も自宅に来てくれても会おうとせず、家を開けていた娘が、知らない人が突然訪ねてきても、きいちないながらも対応していました。初めは緊張していたものの、少しあつ笑顔も見せながら話をしている様子を見て、全てお任せして大丈夫なのだと

確信を持ったのです。

その後は二人の訪問を楽しみに待つようになります。

どんどんドアを開けていくのがわかりました。

週三回の電話カウンセリングでは、辻先生と情報を共有しながらいつも冷静で的確なアドバイスをいたしました。何を質問しても細やかい回答をいたしました。う安心感がありました。導かれるままにダイレクトアプローチ、復学するための準備へと進み、12月の冬休み前に無事に復学することが出来ました。

復学してからも訪問カウンセリングは続き、きめ細やかに娘に寄り添い、励まし、3月に卒業式を迎えることが出来ました。

運動会も修学旅行も参加できませんでしたが、卒業式の晴れやかな娘の顔を見ることで支えをもらいました。

現在、娘は自身が第一志望としていた中学校に合格して入学することができます、元気に電車通学しています。

コロナウイルスの影響で入学後も休校が続きましたがそれでもいかが折れずに休校明けに休まず登校することができているのは、カウンセラーの先生方のおかげです。本当に先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

昨今、学校へ行きたくないなら無理に行く必要はない、学校以外にも別の道がある、といった教育の多様性が時代の流れとしてありますから、私達夫婦もしばらく考えが定まりませんでした。

ですが、ハアレンツキャンプの皆様と出会い、娘には辛い経験を乗り越えてほしい、そしてその経験を

これから成長していくうえでのステップにしてほしい、

との思いから支援をお願いする決断をしました。

その決断は正しかったのか、卒業できた今、切に思います。

最後に、ハアレンツキャンプの諸先生方が不登校で悩まれているご家庭のために、より一層ご活躍されることをより応援しております。

本当にありがとうございます。

敬具

令和2年10月8日